

式年大祭記念号

戸隠神社



あをがき

青垣  
令和3年[春夏号]  
戸隠神社発行  
〒381-4101  
長野県長野市戸隠3506  
026-254-2001  
http://togakushi-jinja.jp

別稿  
特寄

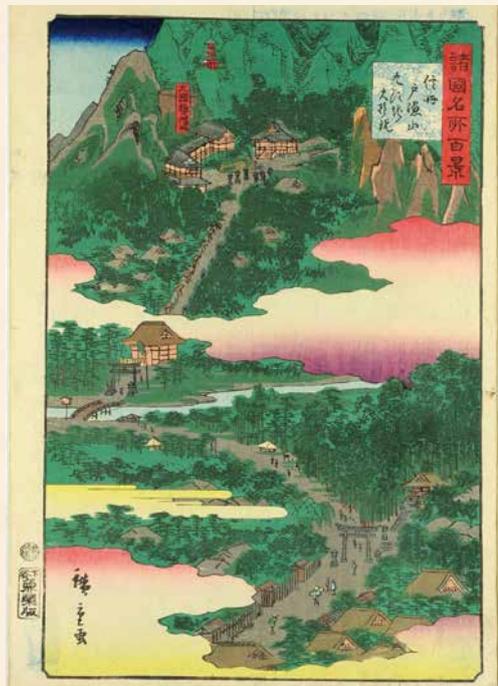
戸隠にてコロナ禍の時代を想う

内藤了

二月早朝。重く垂れ込めた雲の向こうに朝日が射して、白雪で覆われた山々がバラ色に染まる。匂い立つダマスクローズのごとき紅色は、この期間、条件が整った朝に十数分だけ拝める奇跡の色だ。

新作の刊行日が近づくある日、新刊の装丁デザイン

が送られてきた。出版事業は作者だけが目立ちがちだが、実際には多くのプロが支えて刊行に至る。装丁作家もその一人だ。山登りを趣味とする彼にメールで感謝し、『今年も事務所の窓から北



諸国名所百景 信州戸隠山 九頭龍大権現 二代広重作  
奥社（奥院）参道脇には近世まで院坊が栄えた。

アルプスの朝焼けが観えたよ」と書き加えたら、こんな返信が帰ってきた。  
——ご自宅からきれいな景色が見えるって、すごいあこがれます！家にながら気分転換とかできるなんて……いつかそんな場所に住みたいです——  
令和三年春。新型コロナウイルスの

災禍が世界を襲って一年あまり、我々は未だ出口の見えない不安の中にいる。そんな状況下で受け取った彼の言葉は自然豊かな信州に暮らす私にささった。東京に職場がある出版関係者たちは昨年春から自宅でもリモートワークを強いられている。窓から見えるのは隣接する建物と直角に切り取られた窮屈な空。モニターを通して人とつながり、やむを得ぬ事情で職場へ向かう場合は終始無言であるという。風景や季節を遮断され、人と接する機会を失うことがどれほど辛いか、彼の言葉は吐露しているようだった。

阪神淡路大震災の死者数は6,535人（神戸新聞社調べ）。東日本大震災の死者行方不明者の総数は18,428人（警察庁まとめ）。新型コロナウイルスによる死者数は、世界で259万人を超えるという。

繰り返し返される災害で、我々はあまりに多くの命を喪った。そのショックと悲しみは映像を観る者に衝撃や慟哭を呼び覚ます。ところがその何倍もの死者を出したコロナ禍は、なにか、どこかが違っている。潜行する病禍は視覚に訴えることもなく、メディアが報道する数字でしか死者の多さを実感できない。

そして、愛する人の最期を看取ることも、別れを告げることすら叶わなかった人々の悲しみや衝撃や悔しさを共有しがたい。命の瀬戸際で戦う医療従事者を手伝うことも、直接エールを送ることも叶わない。普通のことだと

盲信してきた日常が、こんなにも脆く崩れ去るものだったという現実に圧倒されるばかりだ。こんな災禍をどう乗り越えたらいいのだろうか。

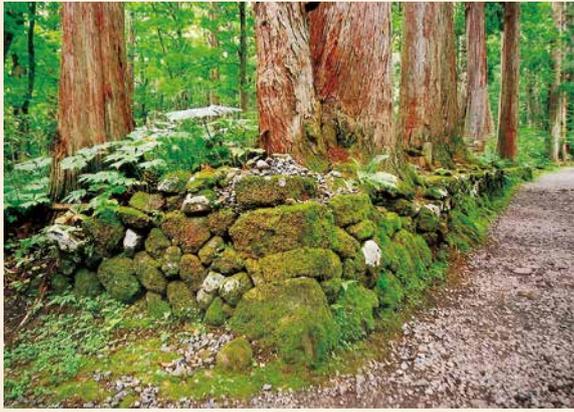
感染症の歴史を調べてみると、今ではほぼ根絶されたポリオはわずか六十年前に大流行していたし、さらに半世紀前には細菌性赤痢が日本を席卷していたようだ。疱瘡、コレラ、天然痘、現代ではさほど脅威と思われなくなつた感染症は幾度も人間社会を襲つていて、我々はそれを知らずに（もしくは深く考えることなく）現代を生きていたということがわかる。なぜそうも無頓着でいられたかという、その時代に生きた人々が英知を結集して災禍を乗り越えてきたからだ。



奥社参道脇の講堂跡。現在は礎石が残るのみ。

令和三年式年大祭 令和の岩戸開き「清明」

※あをがき（青垣）とは切り立った険しい山が垣根のように連なる様子。当社では祝詞の中で「青垣成す戸隠山の麓に鎮まり坐す戸隠神社」と用います。



奥社院坊跡の石積み

件の装丁作家とは因縁がらみの作品を手がけると、共に中社で厄難消除の御祈禱を受けた。初夏の光が降り注ぐ拝殿に上がらせて頂き、頭を垂れて魂の内側を晒していると、地響きのごとき御祈禱の声に一陣の風が吹き渡っていった。切り立つ岩が龍の背を思わせる戸隠連峰、光と曇が交互に流れ、目まぐるしく表情を変える森、奥社参道に整然と植えられた杉並木、その足下に眠る院坊群の遺跡と、祈りの時、鏡池の水面に映る山々や空。花々が一斉に咲き誇る春、木々の緑にウバユリが香る夏、山々が激しい錦に燃える秋、そして戸隠の神々が人の侵入を拒む冬。一瞬のうちに様々なビジョンが脳裏を巡り、自分自身の小ささと、小さき命の尊さを悟る。

「戸隠連峰そのものは自然が創った造形として、この場所の景観は人が創り出したものなんですね」  
戸隠信仰の歴史は二千年に亘ると聞く。人々は奥社に院坊のまちなみを築き上げ、それもやがて消え去って、戸隠十三谷三千坊と謳われた戸隠山顕光寺は神社になった。様相は変化しながらも信仰は変わらない。世の中には変わっていくものと変わらないもの、変わるべきものと変わってはいけないものがあるはずだ。  
さて。まさにコロナ禍の渦中にあつた令和二年、戸隠神社では『令和三年式年大祭の記念事業』としての『中社大鳥居の建替工事』が無事竣工された。自分はメディアを通して見守ることしかできなかったが、記念の節目に命があつて、古い鳥居と新しい鳥居の両方を目にできたことを幸甚に思う。建立された大鳥居は美しく、境内はじめ岩垣の上へと続く石段を光で照らしているかのようだ。そびえる大杉を背中に置いて威風堂々と御神域への結界を宣言しているようにも見える。この鳥居が幾度も冬を越え、風雨にさらされて巖の色に変わっていく様も見せて欲しいと心から願う。そして思うのだ。幾人の人が何を願ってここへ来て、同じ場所から鳥居を見たか。その願いと自分の願いはどこか違っているのだろうか。古道を歩くことでしか神社へ来ることができなかった時代、デスクに置いたパソコンで世界中を観られる時代、様相は変わっても、私た

参拝情報



**りょう氏 プロフィール**  
長野市出身、在住の作家。2014年、日本ホラー小説大賞読者賞受賞作『ON猟奇犯罪捜査班・藤堂比奈子』でKADOKAWAからデビュー。本作品は2016年に波瑠主演でドラマ化された。『東京駅おもてうら交番・堀北恵平シリーズ』が同社から刊行されているほか、講談社『よろず建物因縁帳シリーズ』、小学館『夢探偵フロイトシリーズ』、祥伝社『憑依作家・雨宮緑シリーズ』、幻冬舎『ゴールデン・ブラッド』『メデュサの首』など著書多数。

ちが心から願う事柄に大差はないのかもしれない。  
本年はまた、数えて七年ごとにしか行われない戸隠神社式年大祭の祭祀が斎行される年でもある。悠久の時を通して変わることのない『人としての祈り』を戸隠の神様に聞き届けて欲しいと願う。

「あをがき」バックナンバーは当神社ホームページからも閲覧が可能です。

**令和三年戸隠神社式年大祭行事予定表**

4月26日(日) 式年大祭執行奉告祭 中社月並笠朝6時半 神楽  
4月27日(火) 式年大祭特別朝拝  
4月28日(水) 宝光社月並笠朝6時半 神楽  
4月29日(木) 昭和祭  
4月30日(金) 喜多郎奉納演奏  
5月1日(土) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月2日(日) 式年大祭特別祈禱 [中社 9:30~10:15~/11:00~/11:45~/12:30~/13:15~]  
5月3日(月) 宝光社月並笠朝6時半 神楽  
5月4日(火) 宝光社月並笠朝6時半 神楽  
5月5日(水) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月6日(木) 宝光社月並笠朝6時半 神楽  
5月7日(金) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月8日(土) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月9日(日) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月10日(月) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月11日(火) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月12日(水) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月13日(木) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月14日(金) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月15日(土) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月16日(日) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月17日(月) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月18日(火) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月19日(水) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月20日(木) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月21日(金) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月22日(土) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月23日(日) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月24日(月) 中社月並笠朝6時半 神楽  
5月25日(火) 中社月並笠朝6時半 神楽  
7月11日(日) 善光寺御開帳終了まで

式年大祭特別朝拝 [中社・宝光社 朝6:30~]  
式年大祭特別祈禱 [中社 9:30~10:15~/11:00~/11:45~/12:30~/13:15~]  
太々神楽奉納 [中社 14:30~] 昇殿参拝料2,000円  
御神座回廊特別参拝・御印文拝戴 [宝光社 10:00~16:30] 拝観料1,000円(団体10名以上2,000円)

期間中は「神振行事」として奉納コンサートや各種奉納が多彩に、賑やかに繰り広げられます。

柱松神事  
還御の儀  
離山仏里帰り拝観

戸隠観光情報センター2階(中社大鳥居前)●式年大祭特別展 令和2年7月吉日より開催中(入場無料)